

令和 7 (2025) 年 1 1 月 6 日
 総 合 教 育 会 議
 教育総務課・学校教育課

第 2 回統合説明会 [令和 7 (2025) 年 6 月 2 8 日] 概要報告

- 1 日 時 令和 7 (2025) 年 6 月 2 8 日 (土) 午後 7 時～午後 8 時 3 5 分
- 2 会 場 北条小学校 2 階交流 (北条) ホール
- 3 出席者
 - (1) 参加者 4 5 名
 - (2) 事務局 6 名 田中教育部長、細山教育総務課長、山之内学校教育課長、
種岡学校教育課主幹、布施教育総務課長代理、
茨城教育総務課係長
 - (3) 報道 3 名 朝日新聞、新潟日報、柏崎日報
- 4 会議概要 進行 布施課長代理
 - (1) 開会あいさつ 田中教育部長
 - (2) 概要説明 細山教育総務課長
 - ア 東中学校・第五中学校の統合準備委員会報告
 - イ 北条中学校と東中学校の統合時期の提案
 - (3) 質疑、意見交換 下記のとおり

発 言 者

発 言 概 要

- 保護者 : 今中学 1 年生の子どもが不登校気味で、やっと今の環境に慣れてきたところである。中 3 の大事な時期にまた長い時間をかけて環境に慣れなければならないということが不安だ。
- また、制服が違うことで、北条中から来た生徒だと一目で分かってしまい、いじめや差別につながらないかという点も不安が残る。
- 山之内課長 : 心配はもっともなことと思うが、東中学校は職員も多く、専門性や人間性などの面で様々な職員がいる。その中で話しやすい教員もいれば、カウンセラーや心の教育相談員など、細やかな職員体制や支援体制もとれる。大きい学校だから一人一人を大事にしないということは決してない。東中学校でも一人一人を大切にしていける。
- 細山課長 : 制服については、統合準備委員会の中で課題を共有しながら、どのような形が生徒にとって最も良いのか、学校現場とも共有しながら進めたいと考えている。
- 保護者 : 北条中学校の先生が東中学校と一緒に来てくれればよいが、そうでないと

子どもの様子が分からないので不安である。

また、スクールバスについて、どこまで来てくれるのか。中の方に住んでいる世帯もあるので、手厚く対応してもらいたい。

山之内課長 : 職員の人事は県教育委員会の話になってしまうが、当然北条中学校から東中学校に職員が行くよう県に要望する。また、市で採用する指導補助員については、子どもたちのことが分かる職員を東中学校の方に配置するよう考えており、相談しやすい支援体制としていきたいと考えている。

細山課長 : バスについては、先月の説明会で運行計画案を示させてもらったが、改めて御要望も聞きながら効率だけを求めるのではなく、安全にも配慮の上、検討していきたい。

地域住民 : いきなり1年前倒しという話が出て驚いた。前回の説明会ではそういう雰囲気ではなかったと思う。生徒数が40人を下回るのも、ある程度統計が出ていたはずで、もっと前から分かっていたことではないか。

また、この一カ月の間に、厳しい新聞報道があった。北条中学校は令和9（2027）年度に統合らしいよと人に言われてびっくりした。報道は報道であり、市とは無関係のものだろうが、それが動揺を広げたように感じる。

統合時期の提案理由にある、段階的な統合による北条中学校の生徒への影響や学校の負担を考慮というが、具体的には何を指すのか。

また、望ましい教育環境というが、望ましくない教育環境もあるということなら、北条中は今までそれを望ましいと思ってこれまで頑張ってきたことを理解してほしい。この書き方には違和感がある。

アンケート調査についても、もしも統合反対が多数だった場合は、統合時期を覆すことができるのか。何のためのアンケートなのか。アンケートを基に統合した場合に、周りの大人がどう子どもたちを見守っていくかが大事である。「統合しました。後は頑張ってください。」とにならないようお願いしたい。

細山課長 : これまでに統合検討基準の40人を下回することは分かっていたのではないかとこの点については、元々の入学見込みの人数が16名だったところが実際は12名だったと前回の説明会でもお話ししたところである。直近の数字で推計し直した結果、令和9（2027）年に基準を下回ることが分かったものであり、これまでに分かっていたものではないということは御理解いただきたい。

また、段階的な統合による北条中学校への影響という点は、先に東中学校と第五中学校が統合することによって、北条中学校の生徒の不安やなじめない状態に懸念があるというものである。

最後に、アンケートの結果によりこれらの提案を覆すことがあるのかという質問だが、現時点において提案を変えることはない。ただし、不安や反対の意見の方が多数の場合は、今後のスケジュールを見直し、御理解いただく

ための時間を考慮したスケジュールとすることは考えていきたい。

山之内課長 : 望ましい教育環境について、望ましくない教育環境があるのかというとは決してそうではなく、北条中学校も素晴らしい教育を行っていると言われていると教育委員会としても自負している。少人数のメリットをいかすことや、一人一人に寄り添い、地域とも密着しながら総合学習をしている。

一方で、我々が考える望ましい教育環境の中に、例えばクラス替えを契機に新たな人間関係を構築する力を身に付けることができるように、東中学校と統合した場合には3クラス又は4クラスということになり、人間関係の配慮もクラス替えによって経験することもできる。

また、人数が増えることで、例えば、中3で一生懸命頑張っている仲間が増えると「私も頑張ろう」となったり、そこでまた刺激を受けながら自分を高めたりとなる可能性もある。合唱や体育祭、スポーツ活動など色々な選択肢の中でできたり、よりダイナミックになったり、パートに分かれて合わせる喜びを感じることもできる。

これからの子どもたちは、社会に出ていくときには、同じ価値観の方だけではなく、違う立場の人間とも関わりながらやっていく必要がある。今の学習指導要領では主体的、対話的で深い学びと言われるが、これから答えがない問いをクリアしながら生きていかなければならない。そのためにも大事な中学校の時期に様々な考えに触れることが非常に大切であり、これが我々の考える望ましい教育環境である。御理解いただきたい。

保護者 : 個人的な提案だが、今の中1が卒業するまで北条に在籍することにして、今の小6の子たちから東中学校に進学するというやり方は可能か。違う地域の統合の話だが、小学校に上がるタイミングで統合先の小学校を選んで入学したという話を聞いた。

山之内課長 : Q&Aに記載のある学区外就学に関する部分と思うが、令和6(2025)年9月に学区再編方針を見直し、付随事項として複式学級に在籍または在籍予定の児童生徒が統合検討の対象または対象となる可能性が高い小規模校に在籍または入学予定の児童生徒が人数の多い学校への就学を希望する場合は、学区外就学申請書の提出を認めている。

なお、今の中1生徒が中3まで在籍となると、国や県教育委員会のルールで職員の定数という問題がある。生徒数又はクラス数によって決められているため、3年生だけが在籍している状態では、職員数がかなり減ってしまう。教科担当の教員が少なかったり、臨時で来たり、そういった不利益が出てくる可能性がある。統合は避けられない問題であり、何年度になってもそういう3年生の問題は必ず出てくるので、そこは御理解いただきたい。

保護者： 前回は学区外就学について意見を述べた者だが、そのときも学校を選べることで北条中学校の人数が急激に少なくなったり、活動が狭まってしまったりするのは不安だと伝えさせてもらった。

実際に今年の入学者が少なかったことで統合が早まったと自分も報道で知ったので驚いた。子どもたちはまだ統合の計画について情報がなく、どうなるか不安に思っている。報道はまた少し違うかもしれないが、こういった情報を発信するときには、子どもたちの心のことも配慮してもらえるとありがたい。

また、今の中学1年生が3年生のときに東中学校と統合することで、色々な幅が広がるなど良い面も多くあるかと思うが、やはり1年生で入学して先輩の姿を見て、自分たちが3年生になったらリーダー的な立場になって、先輩のようになりたいとか、そういった希望をもって入学している。その子どもたちが3年生になって東中学校と統合した後、何ができるのか。2年生の冬には生徒会選挙などがあり、それが決まった状態で後から入っていくことになるので、自分たちはそういうリーダー的な立場にはなれないかと思うと、やはり残念である。

親としては、どちらにしても早く結論がほしいというところではあるが、後からおまけみたいに東中学校に入るのではなく、本人たちが活躍でき、ちゃんと学校の中で希望を持って活動できるような支援も考えていただけるとありがたい。

細山課長： 北条中学校の生徒数の推移、いわゆる数字だけが前面に出てしまったということについては、配慮が足りず申し訳なかったと思う。今後は、数字だけではなく、東中学校の情報など、しっかりと保護者の皆様にもお伝えできるよう配慮していきたい。

山之内課長： 希望を持って入学し、先輩の姿を見て、「こうなりたい」という気持ちは痛いほどよく理解できる。先ほどの生徒会の話になるが、3校による統合準備委員会が月1回ほど開催されると、各校長もオブザーバーとして参加するため、当然学校運営上の生徒会の話も出てくる。その中で、北条中学校、第五中学校の生徒を含めてどのようにしていくか、今後話し合いをすることになる。

それから、統合を見据えて生徒同士の交流を行う予定である。今のうちから準備しながら、計画的に交流学习を計画していく。生徒同士、保護者同士が交流する場面があるといいと思っているが、そのような中でも今言われたように希望を持って入学した生徒の気持ちを大事していきたいと考えている。東中学校だけ、第五中学校だけ、北条中学校だけということにならないように、しっかりと準備を進めるための今回の提案であることを御理解いただきたい。

地域住民： 当初は令和12（2030）年統合だったところが方針の見直しを行い、

令和10（2028）年になった。ところが、さらに1年早くなったとすれば、尻に火がついているという状況になる。北条中の同窓会の会長をしているので、私たちとしてもこれをまとめていかなければならないが、今日の説明は、あくまでも目安として説明していると理解していいか。

また、保護者のアンケートを行い、それを参考にして最終判断をするというが、保護者だけのアンケートで良いのか。中学生になればある意味では大人の世界でもある。小学6年生は、どこの中学校へ行くかという極めて重要な年齢になる。保護者だけでなく、生徒や小学6年生の声は大事にしなければならない。

北条中学校は非常に立派な学校運営をしており、北条中学校に転校したいという声もある。そうすると、40人という目安について、今後ずっと40人でいく可能性もある。そう考えると、急ぐことではないのではないか。

教育委員会の方針を重視するのか、保護者や子どもたちの声を重視するのか。統合反対との声を出すのは非常に勇気がいる。今日もこれだけの人が集まって、貴重な意見が色々と出ている。こういった声をしっかりと拾うよう、教育委員会としての努力が大事である。

細山課長： 冒頭に説明したとおり、この提案については、統合の基準40人を下回るという目安だけで提案したものではない。北条中学校の生徒への影響や、望ましい教育環境という基本のところも総合的に踏まえての提案である。本日の提案内容は、目安ではなく教育委員会としての方針を示した、と御理解願いたい。

また、児童生徒をアンケートの対象に含めるべきではないかとの質問については、Q&Aの4番をご覧ください。結論としては児童生徒を対象としたアンケートの予定は今のところ考えていない。北条中学校が素晴らしい教育活動を行っているという前提であり、アンケートを取ることで生徒に不安や混乱を与える可能性があるため、北条中学校及び北条小学校の保護者を対象にアンケートを実施させてもらいたい。考えを声に出して発言できないという方もいるので、そういう意味も含めた、アンケート調査の実施であることを御理解いただきたい。

地域住民： 本日の提案について、理由が2つ書かれているが、2つ目については時期の提案についてではなく、統合自体の理由である。時期を議論することと、統合を議論することをしっかり分けないといけない。

また、統合時期を早めた中で、他の中学に行く生徒がいることで、これまでの推計と違ったことは、決して教育委員会のせいではない。色々な考え、事情があり、他の中学に決めたのだから、このことは皆が共有しなければいけない。その上で、統合時期が早くなることと子どもたちへの影響を考えることが大切だと思っている。

3校同時に統合した方が生徒の負担が少ないと判断したのだろうが、その

点もう少し聞かせてもらいたい。

細山課長 : 統合時期の理由や統合そのものの理由が混在してしまったことは申し訳なかった。お見込みのとおり３校同時に統合することが円滑な教育活動への移行となると判断し、提案したものである。

山之内課長 : 生徒への影響については、先ほどの答弁のとおり、例えば生徒会のことが挙げられる。自分たちのルールを自分たちで話し合っ決めていく非常に大事な自治活動だが、仮に令和９（２０２７）年に東中学校と第五中学校の中でそれが話し合われ、令和１０（２０２８）年に北条中学校の生徒が合流して改めて話しましょうとなった場合に、「昨年決めたのにまた話し合うのか」といった齟齬が生まれる可能性もある。そういう点からもこれから新しい中学校を作っていこうという中で３校がそれぞれの価値観の中で話し合いながら決めていくという過程が非常に大事だと考えている。

また、地域の方と一緒にやる総合的な学習についても、教育課程を作っていく中で令和９（２０２７）年は東中学校と第五中学校で、令和１０（２０２８）年になったら今度は北条中学校も、となるより一緒に作っていくという作業も大切である。

部活動についても、生徒たちの文化・伝統づくりという面もあり、段階があることが生徒たちにはどうなのかというところがある。

それらを考えると、やはり３校同時の方が生徒たちには良い影響があるのではないかと判断した上での提案とさせてもらっている。

地域住民 : 今までの流れから、もう決定事項という風に受け止めざるを得ないように感じる。どのような考えで提案しているのかももう一度確認したい。

細山課長 : 本日は統合時期についての柏崎市の考え方を提案させてもらった。今日この場で決定とは考えていない。今日の意見、それからこの後実施するアンケートを参考にし、最終的に決定させてもらいたい。

地域住民 : そうすると、今の段階で市としてはこの方向で行きたいという明確な方針を出したと受け止めて良いか。

細山課長 : そのとおりである。

保護者 : 自分も改めなければならないが、統合に当たって、「五中と北条中から東中に来た」という感覚に生徒もなってしまう。北条中学校や第五中学校の生徒は東中学校に行くことは分かるが、東中学校からすると北条中学校や第五中学校のことはよく分かっていないため、北条中学校や第五中学校で交流するなど、今までの風土を理解してもらえればと思う。

山之内課長 : 第五中学校と東中学校の説明会のときも同様の意見があった。我々も吸収ではなく対等の統合と考えており、校区が広がったと捉えて北条中学校や第五中学校の教育資源を生かすということもある。交流のやり方については工夫していきたい。

細山課長 : 交流のやり方については、提案いただいた内容を踏まえて検討したい。そのための準備期間だと我々も考えている。

地域住民 : 第五中学校と東中学校の統合の際、不安を訴える保護者がいて、学区等審議会により時期尚早との意見が出て、先送りになったという経緯があった。今回は学区等審議会に諮ることは検討しているか。

1年生にとっても、入学した後から急に変わられるとなると影響が大きすぎると感じる。大人にとっては一緒にした方がメリットもあるだろうが、生徒にとってメリットが見えない。また、色々と事情があり、教室に入れる生徒もいれば入れない生徒もいる。そういった状況の中でいきなり統合を前倒しするのは難しいため、個人的には反対である。

布施課長代理 : 学区等審議会については、令和4（2022）年から令和5（2023）年に掛けて2年に亘り開催した。そして、その際にいただいた意見を基に昨年9月に学区再編方針の見直しを行い、変更させてもらっている。よって今回の北条中学校の統合に関して学区等審議会は現時点では考えていない。

山之内課長 : 生徒側のメリットという点については、先ほどの統合に関するメリットや、3校一緒になることで生徒の自治的な活動が促されるといった答弁の繰り返しとなるので省略させていただく。

保護者 : 今1年生の子の保護者だが、今回の統合について、5月に初めて聞いて驚いた。子どもも知らなかったことで、急に3年生になったら統合すると聞いて嫌がっている。

Q&Aに生徒にアンケートを取ると混乱や影響を与えるとあるが、どういった混乱や影響があるのか具体的なことが分からない。統合で一番考えてほしいのは子どもたちのことであって、子どもたちの気持ちを汲み取らずに前倒しで統合というのは反対である。できれば今の1年生が3年生になるまで北条中学校で過ごさせたい。今の6年生から東中学校に統合となればその方が子どもにも影響が少ないと思う。

先ほど反対の意見があっても方針を覆すことはないとのことだが、私も、もう決定事項かのように感じた。アンケートで反対の意見があれば、時期を元々予定していた令和10（2028）年度にしてほしい。統合自体はやむを得ないと思うが、ここに来て急に統合を早めるというのは考え直してもらいたい。

山之内課長 : 生徒へのアンケートの影響について、北条中学校は素晴らしい教育活動をしているので、お子さんが「統合は嫌だ」と言った気持ちは自然なことと思う。反対に「統合して欲しい」という意見が出たときにどうなのかと感じる。

仮に生徒たちにアンケートを取るとすると、賛成・反対それぞれあったときに、生徒の間であなたは賛成派、あなたは反対派となった場合、非常に教育的に良くない。これが生徒に不安や混乱を与えるということである。やはり子どもたちに望ましい教育環境を与えるのは、大人たちがしっかりと考え

ることが大事だと考えている。

細山課長 : 既に決定事項だという印象を与えてしまったことについては申し訳ないと思う。あくまでも方針を、すぐに変更することはないということを伝えたいつもりであり、今日の説明会をもって決定ということではないことは御理解いただきたい。

保護者 : 保護者の中でも賛成、反対の意見はあるので、やはり子どもたちにも聞いてもらいたい。子どもたちにも、統合するとういうメリットがあると説明し、良い面悪い面と教育委員会から説明し、その反応を聞いてもらいたい。その上で子どもたちへのアンケート、保護者へのアンケートを総合的に集計してもらい、またこういった会で説明してもらいたい。「統合について」と「時期について」を分けた上でメリハリをつけてほしい。

細山課長 : 現段階では提案のあった生徒に対しての賛成、反対の確認はしない方向だが、しっかりと生徒からも理解してもらえるような分かりやすい説明は大切だと認識している。貴重な意見に感謝する。

地域住民 : 5月に説明を受けた際に40人を下回る年度の遅くとも3年前には検討を開始すると聞いたが、もう2年しかない。統合はある程度避けられないと思うが、時期やプロセスが大事である。

細山課長 : 確かに5月の説明とは異なり、結果的に準備期間が2年となる。時間的に厳しいとの御指摘であるが、この2年間でしっかりと東中学校や第五中学校とも連携しながら、統合に向けた準備をさせていただきたい。

田中部長 : 本日の提案について、それぞれの方が様々な不安を抱えていることも分かった。子どもが一人であっても、何人であっても細かい配慮はしっかりと考えていく必要がある。今日都合が付かなかった方も、発言しにくいという方もいるかもしれない。そうした方の声もアンケートの中で聞かせてもらい、最終的な判断をしていきたい。

以上